

防災 だより

その80

昨年の災害と 自主防災組織

昨年の災害を振り返ると、1月の日向灘地震、1月から3月の間、全国8県で発生した山林火災、6月の宮崎県霧島の新燃岳噴火と鹿児島県口永良部島噴火、トカラ列島近海の断続的な地震、5月から9月大雨による浸水・土砂災害や台風による突風などがあり、激甚災害に指定された災害もありました。

災害時は、自分の身の安全は自分で守る「自助」と地域やコミュニティといった近所同士が協力して助け合う「共助」が、とても重要になってきます。

県や市などが行なう「公助」は、大災害になるほど対応に遅れが出る可能性があるので、それまでの間、地域や近所の人たちが相互に協力して避難、救出・救護活動や消火活動など、被害を最小限に食い止めるための応急活動を行うのが「自主防災組織」になります。

●自主防災組織はなぜ必要？

1995年の阪神・淡路大震災（活断層型地震）では、瓦礫の中から救出された人達のうち自力や家族、近所の住民によって救出された割合

【阪神・淡路大震災の際の救助】

自力で	34.9%
家族に	31.9%
友人・隣人に	28.1%
通行人に	2.6%
救助隊に	1.7%
その他	0.9%

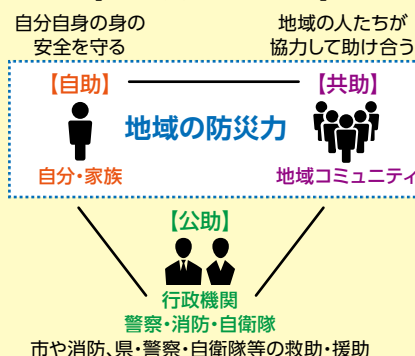
約98%

合が、約98%にも上りました。地域のコミュニティによる迅速な活動が非常に重要で、特に、地元住民が高齢者を救出するなど地域のつながりが多くの命を救いました。これにより、災害時における自助・共助の重要性が再認識され全国にその組織が広がりました。

早朝（午前5時46分）の地震発災で若い世代の在宅者が多かったことも自助・共助による救出につながった要因ともいわれています。太宰府市で平日の昼間に発災した場合、地域に残っている多くの人が高齢者の場合ではどうでしょうか。

日ごろから、自宅の耐震化や家具・家電の転倒防止などの取り組みをしておきましょう。

【自助・共助・公助の図】



●自主防災組織の活動は？

組織化しているほとんどの区が、自治会の組織を自主防災組織として展開し、災害時に効果的な活動ができるよう、防災訓練の実施、水や食料の備蓄、防災資機材の準備や防災環境の確認など、日ごろから防災に関する正しい知識を共有し、各家庭で災害に備えるなど、自主防災活動を積極的にこなしています。

地域のコミュニティを生かした自助・共助が、有効な地域の防災力になりますので地域活動への積極的な参加とご支援をお願いします。

県は昨年10月、地震に関する防災アセスメント調査結果を10年ぶりに公表、警固断層による最大の被害を想定した調査では、太宰府市の被害想定は、「地震規模マグニチュード7.7、最大震度7」、建築物被害は7,300棟、死者200人、負傷者は1,000人、避難者15,000人（在宅避難者・車中泊避難者を含む）になっています。

コミュニティ無線でJアラートを試験放送します

問い合わせ 防災安全課 防災対策係 ☎内線531 ページID 38575

日時 2月6日(金) 午前11時 ※予備日 2月20日(金)



太宰府消防署からのお知らせ

太宰府消防署 ☎(924)4119

山火事の多くは、たき火やたばこの吸い殻など人の不注意が原因です。そこに、雨が少なくて空気乾燥、強い風が重なると、あっという間に火が広がり、大きな被害につながります。

小さな火でも、条件が重なると**大きな山火事**になります。

一人ひとりの心がけで、筑紫野・太宰府の豊かな山と自然を守りましょう。



山火事を防ぎましょう！

山火事を防ぐためのポイント

- ① 枯れ草焼やゴミ焼却などの「野焼き」をしない。
- ② 風が強い日・乾燥している日は、屋外で火を使わない。
- ③ たばこの吸い殻は必ず火を消して携帯灰皿等へ。絶対にポイ捨てしない。
- ④ バーベキューやたき火の後は、水をかけて完全に消火する。
- ⑤ 登山・ハイキング中は、山で火を使わないなど、ルールを必ず守る。

